

BankART school

バンカートスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。バンカートスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。バンカートスクールは日曜を除くほぼ毎日、休み無く開講しています。この13年もの間で講座279、述べ874人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ4400人を超えます。ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

バンカートスクール校長 村田 真



2017年5月-6月期 募集案内

2017年7月-8月期 募集案内

2017年9月-10月期 募集案内

お申し込み方法

①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・FAX・電話のいずれかにてお知らせください。その際に受講料の振込先をお知らせいたします。

1講座15,000円(税込)。はじめての方は入学金3,000円(税込)も一緒にお支払いいただけます。入金を確認でき次第、手続き完了となります。一旦納入された受講料は返金できませんのでご了承ください。

※楢橋朝子「写真ワークショップ」のみ受講料12,000円

※講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。

※申し込み受付は定員になり次第、終了させていただきます。

スクール受講生の特典

受講生には学生証を発行します。また、BankARTショップでの買物が5%割引、BankARTバブおよびカフェの1,000円チケットが10%割引となります。

お申し込み・お問い合わせ BankARTスクール事務局

school@bankart1929.com

TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813

アクセス BankART Studio NYK

〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9

横浜みなとみらい線「馬車道駅」6出口[赤レンガ倉庫口]徒歩4分

2017年5月 - 6月期

月 19:30 - 21:30

「美術館の読み方、楽しみ方」 村田 真十和田菜穂子

①5/15 ②5/22 ③5/29 ④6/5
⑤6/12 ⑥6/19 ⑦6/26 ⑧7/3



近年、数こそ少ないものの、新しい美術館が次々と開館しています。ただ建築が斬新というだけでなく、美術館のあり方そのものを変えるような試みも見られます。今回は美術専門家の村田真十と建築専門家の和田菜穂子により、主要美術館を建築、歴史、コレクション、展覧会などから読み解き、その楽しみ方をお伝えします。

[取り上げる予定の美術館] 東京国立博物館、東京都美術館、神奈川県立近代美術館、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、原美術館、東京都庭園美術館、横浜美術館、川崎市市民ミュージアム、国立新美術館など、毎回2、3館

むらた・まこと (5/15、6/12、6/19、7/3予定)
美術ジャーナリスト、画家。東京造形大学、慶応義塾大学、実践女子大学非常勤講師、BankARTスクール校長も務める。朝日新聞、北海道新聞、ウェブマガジン「アートスケープ」などに執筆。主な著書に「アートのみかた」、編書に「いかに戦争は描かれたか」(どちらもBankART1929)など。

わだ・なほこ (5/22、5/29、6/5、6/26予定)
一般社団法人東京建築アクセスポイント代表理事、慶応義塾大学非常勤講師、神奈川県立近代美術館、コペンハーゲン大学などに勤務。建築やアートの分野を横断し、キュレーションやアートマネジメントの活動を行う。主な著書に「北欧モダンハウス」(芸学出版社)、「北欧建築紀行」(山川出版社)など。

火 19:30 - 21:30

「ダンス・クリエーションWS」 中村恩恵

①5/16 ②5/23 ③5/30 ④6/6
⑤6/27 ⑥7/11 ⑦7/18 ⑧7/25



舞踊の創作を実践的に学ぶ講座です。毎回、自身の身体と丁寧に向き合うウォーミングアップから導入し、舞踊の基礎トレーニングや即興の実践を通じてダンサーとしてのスキルを培います。また様々な振付技法を用いての試作作りに取り組みつつ、各々が自分らしい表現の方法を探る場を提供します。表現の幅を広げる機会としては是非ご参加ください。

なかむら・めぐみ | 1988年ローザンヌ国際バレエコンクールにて受賞後渡欧。キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターにて活躍の後、オランダを拠点に振付活動を展開。2007年に日本へ活動の拠点を移す。新国立バレエ団、Noism、Kバレエカンパニー等に作品を提供。新国立劇場やKAATにて「Shakespeare THE SONNETS」「小さな家」「White Room」「ハムレット」等を発表。また、キリアン作品のコーチとしてパリオペラ座をはじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。芸術選奨文部科学大臣賞、横浜文化賞等の受賞歴を持つ。

水 19:30 - 21:30

「現代美術の世界/世界の現代美術」金澤 毅

①5/17 ②5/24 ③5/31 ④6/7
⑤6/14 ⑥6/21 ⑦6/28 ⑧7/5



「文化論から見た美術の世界」(例) わが国の美術界/美術館と博物館の違い/デザインとアートの違い「世界の美術界の現状」(例) ビエンナーレとはどういうものか(サンパウロの例)/民族美術とはなにか/美術にアイデンティティは不可欠か「美術表現の種類」(例) 版画の可能性/これまでの分類法/これからの分類法「芸術と社会」(例) 芸術をどう生かしていくか/政治と芸術の共存は可能か「サブカルチャーとは何か」(例) アートとサブカルチャーの違い/サブカル大國日本はどうして出来上がったか

かなざわ・たけし | 在中南米日本大使館勤務(文化担当官)8年の後、「国際芸術見本市協会」事務局長として海外向けの日本現代美術紹介に従事する。1979年、原美術館創立に加わり、17年間「ハラアニュアル」を始めとする企画及び海外作家の紹介に務め、その後京都の成安造形大学の創立と共に「現代美術論」「芸術計画」「民族芸術論」等の授業を担当し、定年退職。現在は同大学名誉教授及び美術評論家(ICA)。

木 19:30 - 21:30

「写真ワークショップ」 檜橋朝子

①5/18 ②5/25 ③6/8
④6/22 ⑤7/6 ⑥7/20



写真にはその人の「ものの見方、世界の見方」が現れると思っています。当然ですが「正解」はありません。参加者との対話を通して、写真の入口も出口も異なる各人に合ったアドバイスをしていきます。取りあえずの目標を定め、出力も一緒に考えていきます。初日から作品の講評をしますので、どんな形態でもいいので作品をお持ちください。

ならはし・あさこ | 東京都生まれ。早稲田大学第二文学部卒業。80年代半ばに写真家として活動を始める。90年に自主ギャラリー-03FOTOSを開き連続展を開催。近年は主に水際を水面から撮影したシリーズで国内外での展示多数。写真集などに『NU・E』、『main』(1~10、共著)、『フニクリフニクラ』、『half awake and half asleep in the water』、『Ever After』、『近づいては遠ざかる ベトナムの場合 1985/2015』他。http://www.03fotos.com/
※この講座のみ全6回受講料12,000円

2017年7月 - 8月期

月 19:30 - 21:30

「写真を語り合うタベ」 鷹野隆大

①7/10 ②7/17 ③7/24 ④7/31
⑤8/7 ⑥8/14 ⑦8/21 ⑧8/28



写真は機械だから誰が撮っても同じになるわけではなく、むしろ機械的正確さで撮影者の無意識を写し込む。それは写真の巧拙と無関係であるどころか、いわゆる“いい写真”は撮り手の意識や個性を削り取った結果であることも珍しくない。この講座は写真を「読む」作業を手始めに、「いい、悪い」といった視点とは別の角度から写真を考え、参加者の作品制作を手助けすることを目的としている。初心者の方も大歓迎。

たかの・りゅうだい | 1963年生まれ。2006年セクシュアリティをテーマにした写真集「IN MY ROOM」で第31回木村伊兵衛写真賞。2011年には日本特有の街並みを集めた写真集「カスババ」を、2016年には影をテーマにした写真集「光の欠落が地面に届くとき 距離が奪われ距離が生まれる」を発表。性や都市、光と影など身近なものを題材にしながら、制度化された視覚の外側を模索している。

火 19:30 - 21:30

「美術史の解体と構築」 加藤隼男

①7/11 ②7/18 ③7/25 ④8/1
⑤8/8 ⑥8/15 ⑦8/22 ⑧8/29



サブカルチャーが反知性主義を先導する時代もあれば、生き方としての知性主義という文化のありようが開花した時代もあった。近現代の美術の展開に創造列島という切り口を導入することにより、これまで見えてこなかった芸術文化の社会的存在を明らかにする。文人墨客という生き方が、どのようにして消滅したかの過程を再検討することにより、近現代の美術史を書き換える試みに挑戦する。

かとう・たねお | クリエイティブ・ディレクター。アサヒビールで芸術文化振興に携わり、近年まで企業メセナ協議会専務理事。あわせて、横浜市芸術文化振興財団専務理事等を歴任し、創造都市横浜の基礎を築いた。草の根市民社会の創造的ネットワークを提唱して、アートNPOフォーラムやアサヒ・アートフェスティバルを立ち上げ、アートNPOリンク理事などを務める。民間版のアーツカウンシルを推進しつつ、文化政策の提言を行い、国及び地方のアーツカウンシル設立に寄与。長年の芸術振興活動により、2008年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

水 19:30 - 21:30

「ソロー、監獄、法の彼方」 今福龍太

①7/12 ②7/19 ③7/26 ④8/2 ⑤8/9
⑥8/16 ⑦8/23 ⑧8/30



ヘンリー・ソロー生誕200年の今年。現代社会を覆い尽くす産業社会の合理システムと法治主義の原理が産声を上げていたアメリカで、すでにそうした制度の非人間性を根源から批判したソロー。彼の思想と行動の意義はいまこそ再考されねばならない。奴隷制とメキシコ侵略戦争のさなかに投獄され「獄中からの自由」を説いたソローの真意とは? 合衆国憲法の不義を告発し、国家への「不服従」を呼びかけたソローの抵抗精神の拠点とは? 19世紀アメリカのソローから、現代の監獄-産業複合体による生-政治のテクノロジー的管理社会までを一望するヴィジョンを、「政治」(ポリティクス)と「芸術」(エステティクス)の統合として考察する。(※ソロー200歳の誕生日にあたる講座初日の7月12日は、前日11日夕から四国・祖谷(いよ)の茅葺民家を会場とした特別篇を予定。自主参加。宿泊可。参加できない方には横浜にて別途補講あり。詳細は事務局へお問い合わせください) [講座テキスト] 今福龍太「ヘンリー・ソロー野生の学舎」みすず書房(2016)

いまふく・りゅうた | 文化人類学者、批評家。東京外国語大学大学院教授。巡礼型の野外学舎「奄美自由大学」主宰。著書に『クレオール主義』『ミニマ・グランア』『群島-世界論』『レヴィ=ストロース 夜と音楽』『薄墨色の文法』『書物変身譚』『わたしたちは難破者である』など。近刊予定に『ハーフ・ブリード』。

4月 - 6月 毎週土曜
19:00-20:30

BankART AIR Artist Talk (オープンスクール)

①4/22 ②4/29 ③5/6
④5/13 ⑤5/20 ⑥5/27
⑦6/3 ⑧6/10 ⑨6/17

BankART Studio NYKでは、43組のアーティストが、4月10日より制作活動をおこなっております。4月22日より毎週土曜19時から4~5チームが、1階Pubスペースにてアーティストトークをおこないます。みなさまお誘い合わせの上、ご参加ください。参加費は必要ありませんが、バブにてドリンクのオーダーをお願いします。

連携講座

ヨコハマ海洋市民大学

5/18 ~ 3/22 隔週木曜
19:30-21:10

詳細は HP 参照

http://yokohamakaiyouniv.wixsite.com/kaiyo